

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 168

2021年11月27日発行 通巻No.178号

創刊2007年2月27日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL: 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～16時の間対応します。)

TEL&FAX: 03-6303-8265

MAIL: npokouken@gmail.com HP: <http://www.shiminkoukenninnokai.jp>

◆35号Aさんとの出会いと別れ◆

正担当 岡部裕子

Aさんご夫妻の後見を市民後見人の会が受任することになり、私をご主人Aさんの正担当になりました。私にとって最初の担当案件です。

初めてAさん(当時87歳)とお会いしたのは2016年の12月半ばでした。奥様の担当者、ケアマネ、社協の担当者と一緒にご自宅へお伺いしました。2DKのお住まいは、天井まで荷物が積み上げられ、狭い通路を残すのみ、そこに小柄なご夫婦が肩を寄せ合って暮らしていました。当初は在宅で見るという方針でしたが、相次いでケガや病気をされ、別々の病院に緊急入院し、日常的な医療ケアが必須となり、施設入所の方針に切り替えられました。

年金と軍人(傷病者)恩給の収入はご夫婦二人の生活には十分なものでした。子供がいないので、財産を残す必要もなく、パチンコと競艇にすべて使い切ってしまう生活だとのこと。たいへんなギャンブル好きと思われていました。

家裁調査官の面談を経て、Aさんは保佐相当との審判が下り(奥様は後見)、2018年3月から後見活動が始まりました。Aさんは、財産、収入はすべて自分で管理するという気持ちが強く、後見制度を受け入れてくれる様子は全く見られず、私達正副担当者のことも、ちょっとお手伝いしてくれる人ならいても良い、よろしく頼みますという位置付けで受け入れてくださいました。以来、私達は、品川区か何かの生活支援担当者ぐらいに思われていたと思います。

施設に入ってから、パチンコにも競艇にも全く行けなくなったのに、行きたいとおっしゃったことはありません。ギャンブル依存症ではなかったようです。環境になれるまでは、気難

しきやいらだちを見せることもありましたが、2年目に入るとかなりなじんで穏やかな表情が見られるようになりました。奥様と別々の施設にいることについても特に不満はなく、むしろ同居には否定的で、たまに会えればそれで良いという意見でした。たまの逢瀬には、お二人とも、言葉少なにはにかんでいるような表情を浮かべ、ただお互いの存在を感じ取って満足するという感じでした。

ところがそこへコロナが降ってわいて、私達との面会も奥様との面会もできなくなりました。昨年12月末に、奥様が転院するわずかな隙をぬってご夫婦が顔を合わすチャンスがあり、お互いしっかり見つめ合い、手を握り合うことができました。これが最後のお別れになりました（奥様は2021年1月28日逝去）。

コロナ前、Aさんと面会する時は、いつもコーヒーを飲み、おやつを食べながら昔話を聞きました。なかでも戦争体験の話が、記憶も確かで感銘深かったものです。

Aさんは、14歳で海軍の機関学校に入り、16歳の時、戦艦大和の僚船である駆逐艦「磯風」に乗り組んで、大和の特攻隊の一員として出撃しました。そして昭和20年4月7日、大和を沈めた米軍機の引き上げ際の機銃掃射を受け、左足を負傷し、無事であった僚船「雪風」にて佐世保に上陸、大分の病院で切断手術を受け、長湯温泉病院で療養、退院後、障害者の職業訓練として県立工芸学校へ入学、竹細工を習得。当時物がなかったので、Aさんの作った竹籠は飛ぶように売れたそうです。一週間ごとに業者が取りに来て、お金を置いていく、それを懐に入れて色街へ遊びに行くという生活を数年続けたと半ば自慢げに、懐かしそうに話してくれました。のちに、浅草の仲見世の商店の棚に、自分の作った竹の花籠が飾ってあるのを見てびっくりした。自分の作ったものに間違いのない、作った人間なら判るよと言っていました。

Aさんは、ゴルフや釣りの趣味もあり、よく遊びに行っていたようですが、お金の使い道、使い方にはとてもシビアで、贅沢はせず、真面目で折り目正しい方でした。コロナがなければ、もっとたくさんのお話しが聞けたのにと、残念でなりません。

最後の面談では、公正証書遺言を作ることを承知され、今回はそのための準備をしようと副担当の高原さんと話し合ったその晩に急死されました（10月17日、享年92歳）。きっと奥様から「早く来て！」と呼ばれたのだと思います。

Aさん、あなたにお会いできてほんとうに良かった。ありがとう。さようなら。

心よりご冥福をお祈りいたします。奥様と楽しくお過ごしください。



◆スキルアップ講座◆

研修・相談部会 杉谷 徹夫

10月28日(火)13時半から品川区中小企業センター大会議室にて今年度1回目のスキルアップ講座を開催しました。テーマは品川区介護保険事業計画(いきいき計画21)で講師は品川区福祉部高齢者福祉課の高桑さんをお願いしました。13名の会員が参加されました。1時間程の講義の後質疑応答が行われましたが、今後品川区内に新規にできる予定の特別養護老人ホーム(林試の森と八潮南)のことや、特養の応募・入居状況についての話題で盛り上がりました。

次回は12月15日(水)13時半から中小企業センター大会議室にて、家族信託の基礎知識を遠藤英嗣弁護士にお願いすることになりました。奮ってご参加ください。



◆やしおカフェ◆

11月8日(月)、「やしおカフェ(主催:NPO法人協働まちづくり)」が開催され(場所:こみゆにていぷらざ八潮、参加者:15名)、本会事務局の馬庭俊一郎さんと大岡朋子さん、広報部会が参加しました。

最初に協働まちづくりの杉本義雄理事長による新型コロナに関する解説が行われました。次に20分程度の落語(「千早ふる」桂吉弥)のDVDを放映して高齢の参加者に和んでもらい、更にDVD(成年後見制度<市民後見人物語>)を放映し成年後見への興味をもってもらいました。最後に馬庭さんによる市民後見人の活動、本会の紹介がなされこの日は終了しました。閉会后、八潮図書館長から「八潮図書館も認知症カフェをやっているので今日のような説明を行って頂きたい」との要請を受けました。



◆情報交換会◆

後見部会主催による後見担当者同士の情報交換会が次のとおり開催されました。

日 時：11月20日（土）13：30～16：30

場 所：品川第一地域センター

参加者：20名

最初に斉藤裕二後見部会長の「この情報交換会は各担当者が現在の活動状況を述べ、盛んな意見交換を行う大事な会です。コロナ下において心配な事が二つあります。一つはコロナで部屋に閉じこもり、被後見人ご本人の体が弱ってくる、また認知症が進む。二つ目は『後見活動をやっていてよかったな』という思いが減ってきて会員同士の横の繋がりも含め、会のパワーが落ちてくる恐れがある」という挨拶があり、朝倉鈴子理事の司会・進行で開始しました。

現在進行中の18件（死後事務1件含む）のケースについて各担当者から現状報告がなされました。多くが困難なケースで担当者の苦労等が発表されました。その中で大きな課題を抱えている次の3つの事例について討議を行いました。

- ①低資産、負債あり、年間の収支がマイナスで自宅希望が強く施設入居を拒否する被後見人への対応。
- ②低資産、負債あり、特養入所の目途がたつも被後見人が所有する自宅をどう処分するか。
- ③治療を必要とする症状があるが被後見人が拒否し、施設に入居しているが本人をどのように見守りケアしていくか。

各参加者が活発に意見を述べ合い、休憩10分間を挟んでの充実した3時間でした。



◆2021 年度 9 月度理事会報告◆

- 1 開催日時 2021 年 9 月 21 日（火）15 時 30 分～17 時 00 分
- 2 開催場所 品川区社会福祉協議会 3 階会議室
- 3 出席理事 朝倉鈴子、内山恵子、大金修、金城清、古賀忠壹、斉藤裕二、杉谷徹夫、杉山麻里子
高原三平、馬庭俊一郎各理事（理事総数 10 名）
- 4 オブザーバー 國枝園子、小松統各監事（敬称略）
- 5 議事

<審議事項>

- ① 後見担当者交代（52 号）について副担当を交代することを決議した。（正担当は変更なし）
- ② 以下の規程類の改正について決議した。
 - イ）B-2 会務細則 事務局の業務に「ICT（情報通信技術）の管理」を追加した。
 - ロ）B-12 謝金細則 謝金の支払額の責任者を財務担当理事とした。
 - ハ）B-14 旅費交通費細則 出張以外の日帰り交通費の決裁者を事務局長・部会長とし、小口現金で精算可能とした

<報告・連絡事項>

- ① 今後のコロナ対策について従来通りとし、改めて全員メールで発信することとした。（古賀）
- ② 2021 年度業務指導委員会開催について報告があった。（高原）
- ③ 2021 年度スキルアップ講座は 3 回を予定しており、直近は 10 月 28 日「品川区介護保険事業計画について」との連絡があった。（杉谷）
- ④ 情報交換会は、11 月 20 日を予定している旨連絡があった。（斉藤）
- ⑤ しながわ地域貢献活動展参加について本会は、「しな活【冊子】」（区協働推進係が作成する団体紹介冊子）へ投稿したとの報告があった。尚、昨年度に続き、会場を使っての行事はコロナのため中止が決定している。（金城）
- ⑥ さわやか福祉財団主催の「いきがい・助け合いサミットイン神奈川（9/1.2）」について、報告があった。（本会の参加者は 10 名）（高原）
- ⑦ パソコン保守管理サービス説明会（8/23）も報告があった。その他、事務局体制で ICT 担当理事を杉谷徹夫、担当（ピーシーデポ窓口兼）松丸心一とした。（高原）
- ⑧ 会報 9 月号について目次の報告があった。（金城）
- ⑨ 中長期日程表について別添資料により連絡があった。（高原）

<今後の予定>○10 月 28 日・スキルアップ講座 ○11 月 20 日・情報交換会（記 高原三平）

コロナ収束の兆しが見えてきて、夜の街には人出が戻ってきたように見えます。ただ、第 6 波の危険性が高いとの専門家の意見もあります。緊張感が大事だと自省する今日この頃です。（編集 金城 清）